

事業コード	H20-建-新-01		区 分	国庫補助	県単独
事業名	地方街路交付金事業		部局課室名	建設交通部 都市計画課	
事業種別	一種改築(パイパス)		班 名	市街地整備・街路・公園 (tel) 018-860-2444	
路線名等	都市計画道路 中央線		担当課長名	村木 幹夫	
箇所名	横手市本町		担当者名	佐々木 均	
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり	
	施策コード	02	施 策 名	街なか活性化による賑わいの再生	
	指標コード	04	施策目標(指標)名	都市計画道路整備率	

## 1. 事業の概要

事業期間	H21 ~ H27 (7年)		総事業費	30.0億円	国庫補助率	5.5/10	
事業規模	延長L=478m 幅員W=6.0(16.0)m (3.50-1.50-3.00-3.00-1.50-3.50)						
事業の立案に至る背景	<p>本路線は、横手市の中心市街地を南北に縦断する都市内幹線道路であり、沿線には行政施設や文教施設等の公共施設が立地していることや、通学路やバス路線にも指定されていることから、都市生活を支える重要な路線である。しかし、当該区間は幅員が7mで城下町特有のクランク部分があり見通しが悪い上、歩道もなく交通事故が多発していることから、安全な通行を確保できていない状態にある。</p> <p>都市内幹線道路としての円滑な交通の確保と、地域住民及び歩行者の安全確保を目的として、新規箇所要望するものである。</p>						
事業目的	<p>バス交通を含めた都市内交通の円滑性確保 地域住民、道路利用者の安全確保 (死傷事故は10年間で14件。死傷事故率114件/億台kmは県平均の約2.7倍) 公共施設、中心市街地へのアクセス向上 緊急輸送道路としての機能確保</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度以降
	事業費		3,000,000	100,000	501,000	698,000	1,701,000
	経費 内訳	工事費	200,000				200,000
		用補費	2,650,000		498,495	694,510	1,456,995
		その他	150,000	100,000	2,505	3,490	44,005
	財源 内訳	国庫補助	1,650,000	55,000	275,550	383,900	935,550
		県 債	1,111,500	37,000	185,600	258,600	630,300
その他		180,000	6,000	30,060	41,880	102,060	
一般財源		58,500	2,000	9,790	13,620	33,090	
事業内容		道路改築 L=478m W=6.0(16.0)m	調査	用地補償	用地補償	改良・舗装 流雪溝	
調査経緯	<p>都市計画決定(当初)昭和39年3月 都市計画決定(最終)平成14年4月</p>						
上位計画での位置付け	あきた21総合計画における施策「街なか活性化による賑わいの再生」を支援する事業 横手都市計画区域マスタープラン						
関連プロジェクト等	市街地再開発事業、まちづくり交付金事業 横手市施行中央線整備事業						
事業を取り巻く情勢の変化	横手駅前地区の再開発事業により、周辺地区から中心市街地への交通が増加することが予想され、隘路区間を早急に整備する必要がある。						
事業効率把握の手法	指標名	都市計画道路整備率					
	指標式	整備済延長/都市計画決定延長					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無		有 無	
	目標値 a	56 %		データ等の出典	都市計画年報		
	達成値 b	48 %					
	達成率 b/a	85 %		把握の時期	平成19年 3月		

## 2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	都市計画区域マスタープランにも位置づけられている都市内幹線道路である。 交通量はH17センサスでは7,719台/日(内大型車702台/日、混入率9.1%) 歩道の未整備区間があり、通学児童の安全が確保されていない。 道路法上は県道御所野安田線の位置付けがなされるため、県が事業実施するのは妥当である。	31点
緊 急 性	周辺地区から中心市街地や公共公益施設へのアクセス向上が図れる。 市街路事業との連携を図ることにより、交通事故の発生抑制が図れる。 緊急輸送道路でもあり、当工区の整備により都市の防災機能の向上が図れる。	18点
有 効 性	市街地再開発事業を実施している横手駅前地区へのアクセス道路となる。 歩道のバリアフリー化による快適な歩行空間の確保が図れる。 堆雪帯の設置による冬期の円滑な交通の確保が図れる。 沿線において地区計画を検討する等、まちづくりと一体となった事業である。	15点
効 率 性	B / C = 1 . 0 8 総費用の現在価値 24.8億円 総便益の現在価値 26.8億円 工事発注の際に、リサイクル材、プレキャスト製品の使用等、コスト縮減に努める。	8点
熟 度	昭和39年3月に都市計画決定済み。 横手市より早期整備の要望書が提出されている。	10点
判 定	ランク ( ) 「緊急性」、「有効性」が特に高い点数となっており、住民の安全・安心の向上やまちづくり支援のためにも有用な事業箇所であり、実施すべきと考える。	82点
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留 各観点の評点結果から、事業実施箇所としての優先度が高く、事業を実施すべきと考える。	

## 3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定 改善して選定 保留
	当該区間は、城下町特有のクランク部分があり、見通しが悪い上、歩道も設置されていないことから事故率も県平均の約2.7倍と高くなっている。将来の県道計画を見据え、横手市が行う街路事業・市街地再開発事業と一体的に整備するものであり、横手市中心部の円滑な交通確保と歩行者の安全確保の観点から、事業の必要性は高く、事業実施は妥当と判断される。

## 4. 財政課長意見

意見内容	選定 改善して選定 保留
	当該区間は、幅員の狭小、線形不良等により改良の必要性があり、当事業の実施は妥当と考える。

## 5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定 改善して選定 保留
	事業の実施は妥当である。

## 6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

事業箇所を国に新規要望する。 事業実施にあたっては、コスト縮減等に努める。
------------------------------------------

## 7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。
--------------

評価種別 新規箇所評価  
適用基準名 街路事業

事業コード (H20-建-新-01 )  
箇所名 (横手市本町 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	都市計画道路の規模及び機能 道路の規模及び分類	主要幹線街路・都市高速道路 幹線街路 補助幹線街路 上記以外の補助幹線街路など	5 4 3 0	4	4車線以上かつ幅22m以上 2車線以上かつ幅16m以上 2車線かつ幅員12m以上 歩専道を含む	
	都市構造上の機能	高速交通拠点と連絡する道路・都心軸道路 放射環状道路 都心軸を補完する道路 その他の道路	5 4 2 0			4
	現況道路における問題箇所					
	交通容量不足 (現道混雑度1.0以上)	有り なし	3 0	0	バイパス・新設路線については、競合する路線を 現況路線とみなす	
	主要渋滞ポイント	有り なし	3 0			
	狭隘道路 (車道幅5.5m未満)	有り なし	3 0	0		
	線形不良・勾配不良 (道路構造令の基準に達しない道路)	有り なし	3 0			
	バス路線	有り なし	3 0	3		
	歩行者、自転車の交通量が比較的多い道 (自転車歩行者交通量500人・台以上)	有り なし	3 0			
	歩道や自歩道が無い道路 (規定幅員が確保されていない場合を含む 人身事故発生地点)	有り なし 有り なし	3 0 3 0	3		
	老朽橋梁	有り なし	3 0			
	通学路指定	有り なし	3 0	3		
	県事業としての必要性					
	道路法第3条第3号の都道府県道とし 路線認定	有り なし	5 0	5	路線認定予定路線を含む	
	計		45			31
	緊急性	関連事業の有無				
		各種プロジェクト支援 (県主要プロジェクト・地域振興プロジェクト)	有り なし	1 0	1	
		大規模イベント支援 国体・インターハイ・万博など	有り なし	1 0		
		公共公益施設アクセス 市町村役場・病院・学校・公民館など	有り なし	1 0	1	
		他公共事業関連 (街路事業以外の事業支援)	有り なし	1 0		
		住宅地開発 (300戸以上又は16ha以上)の連絡道路	有り なし	1 0	0	
		上位計画の位置づけ				
		・あきた21総合計画 ・都市計画マスタープラン ・渋滞対策プログラム ・その他関連計画	該当項目2以上 該当項目1 該当項目0	7 4 0	7	
隣接区間の整備状況						
隣接区間の整備状況		整備済み 未整備	3 0	3		
防災機能向上への貢献度						
・緊急輸送路又は代替え路線 ・災害避難路 ・消防活動困難地域の解消路線 ・無電柱化計画		該当項目2以上 該当項目1 該当項目0	5 3 0	5		
計			20			18
有効性	物流の高度化と交流の円滑化への貢献度					
	・高速ICアクセス ・港湾・空港アクセス ・新幹線駅又は特急停車駅等( )への アクセス (特急停車駅又は平均 乗降客2000人/日以上の駅) ・主要な観光地へのアクセス ・駅前広場の造成 ・広域道路整備計画	該当項目2以上 該当項目1 該当項目0	5 3 0	5		
	市街地の活性化とまちづくりへの貢献度					
	・DID区域内の事業 ・市街地再開発・区画整理等との連携 ・無電柱化計画 ・景観や中心市街地の特色あるまち づくりに資する事業 ・歩行者空間の確保	該当項目2以上 該当項目1 該当項目0	5 3 0	5		
	安全で快適な生活環境への貢献度					
	・バリアフリー ・二次・三次医療施設へのアクセス ・消・融雪施設の整備 ・堆雪幅の確保 ・道路緑化の推進	該当項目2以上 該当項目1 該当項目0	5 3 0	5		
	計		15			15

評価種別 新規箇所評価  
適用基準名 街路事業

事業コード(H20-建-新-01 )  
箇所名 (横手市本町 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
効率性	費用便益比(B / C)	1.0以上	5	5	
	費用便益比(B / C)	1.0未満	0		
	計画交通量	10,000台 / 日以上	5	3	
		4,000台 / 日以上10,000台 / 日未満	3		
		1,000台 / 日以上4,000台 / 日未満	2		
		1,000台 / 日未満	0		
	計		10	8	
熟度	都市計画決定				
	都市計画決定の状況	都市計画決定済み	4	4	平成 年 月都市計画決定
		都市計画決定予定	2		
	地域のニーズ				
	地域・各種団体等からの要望・陳情・請願等	有り	3	3	
		なし	0		
地域の協力体制					
関係市町村や地域住民の協力	有り	3	3		
	なし	0			
	計		10	10	
合計			100	82	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上 ~ 80点未満		
	優先度が低い	60点未満		